

(国語科)

読解指導における一考察

足利市立御厨小学校国語研究部

(はじめに)

戦後国語教育の上で、読解指導の問題が、とくに問題にされだしてからもう10数年。その間、いろいろな指導法が考え出されて、すべての教室が多かれ少なかれそれらに耳目をそばだててまいりました。そして徐々にではありますが、従来のあいまいな語義指導や感情的な情趣中心の授業から、科学的、論理的な授業に移行して来たように思われるのです。

ところで、現在わが国の国語教育界を見ますと新しい考え方としては、弁証法的唯物論（反映論）と実証主義的科学論（一般意味論）との谷間に立つて、そのどちらかの流れに立ち、それを支持し実践する者、または両者の長所を取り入れて独自の学説をなすもの等々種々あり、それら学者の説を開いてみると実際の指導に際し、どれをよりどころにしたらよいのか迷うような場合が少なくないのです。しかし、われわれ現場では毎日「いかにして読みの力をつけるか」「教科書の文章を読み解かせるにはどうしたらよいか」と取り組み実践していくなければなりません。そこでいきおい教材によりて類型的な学習をさせたり（構造的学習を採ったり）あるいは三読法（通読、精読、味読）、一読総合法、プログラム学習、と指導のテクニックを変えて児童の読解力の向上をはかるのであります。

しかし、ここでは、それら指導法についてふれるのではありません。それらを実践していく場合、今まで多くの先輩たちが行なつてきた「あたりまえのこと」を想起し、少しく科学的に取り扱うこととも、小学校における読解指導、読解力向上の第一段階であることを信じ実践例を記すことにしました。

◎ 本校における読解指導上の問題点（小学校）

今年度わたしの勤務校で国語科の研究目標をきめるにあたり、全教師に読解指導に関する問題点のアンケートを実施しました。結果は文字、語いについてのものが多く、数次話し合いのうえ、下記のようにまとめました。

- | | |
|-----|---|
| (低) | { 就学時における児童の読書（字）力の差がひどいが、その対策について。
漢字、ひらがなの学習のさせ方をどうしたらよいか。 |
| (中) | { 漢字習得の具体的指導計画をどう立てたらよいか。
語いを豊かにする実際的指導法について。（語いを増させる） |
| (高) | { 作業を通しての読解技術指導を系統的、計画的に実施（組み込む）する方法。
文脈にそつて、そこにふさわしい語句の意味をとらえさせるにはどうしたらよいか
とにかく、読解技能と取り組む以前。「漢字、語句の力が無い」というのが圧倒的に多く、それらを身につけさせ、定着させることが目下の急務だ。ということであつたわけです。 |

これらのこととは単に本校だけの問題ではなさそうです。本県各地で開催された種々研究集会（国

(関係)において、先輩、同僚、後輩等と話しあつたところ、口をそろえて漢字力、語い力の無さ、
さを嘆いており、全県学力テストの結果等においても歴然としています。となると、読解力の低
さを問題にする時、現下の状況ではまず取り上げなければならない大きな問題点ではないかと思う
であります。

(つぎに)

以上の問題点を各ブロック、各学年でとりあげ、研究授業を実施しながらその対策と取り組んだ
であります。

まず最初に「読書力が無い(低い)」実体をつかむ方法を考えました。種々話し合いの末、教師
主観的な判定を排し、科学性を加味するため、斯道の先輩の教えを受け、下記の実態調査を実施
しました。

読書力診断検査の偏差値と知能偏差値との相関についての調査

(日本文化科学社、小学校中高学年用)

これは、知能テストとの関係もあり、知能テスト実施1年後の学年、ということで、3年
生と5年生に実施してみました。結果は、下表のようになつたのであります。

表1(3年)

読書	知能	75~71	70~66	65~61	60~56	55~51	50~46	45~41	40~36	35~31	30~26	25~21	20~15	
7.5~7.1				3										
7.0~6.6			1	1		1								
6.5~6.1				1		2								
6.0~5.6		1	1	1		1	1		1					
5.5~5.1		1	1	7	3	1	2							
5.0~4.6				11	7	6	3	3						
4.5~4.1				7	7	8	8	4	3					
4.0~3.6			1	1	5	7	6	6	2	1				
3.5~3.1								2		1				
3.0~2.6														
2.5~2.1														
2.0~1.6														

第3学年 被検者(129名) ① 29
 ② 27
 ③ 73……指導対象

表 2(5年)

読書 斜 能	75~ 71	70~ 66	65~ 61	60~ 56	55~ 51	50~ 46	45~ 41	40~ 36	35~ 31	30~ 26	25~ 21	20~ 16
75~71			3	1								
70~66				1	2							
65~61	1	3	4	1	1	1						
60~56				1	2	2	4					
55~51			2	5	5	3	2					
50~46		1	1	6	13	6	2	1				
45~41			1	4	13	5	6				2	
40~36					2	3	11	7	5	1		
35~31						2	3	5	4	1		
30~26							1					
25~21											1	
20~16												

第5学年 被検者(151名) ① 27

② 29

③ 95……指導対象

これを学級ごとに①読書力上位者、②読書力、知能が平衡な者、③知能上位者(読書力下位者)の3段階に分けて整理しました。

その中の(実施)学級を抽出しますと、次表のようになります。

表 3(3年A組男子)

(3年A組女子)

事項 氏名	知能	読解力	判定	段階
a	51	42	- 9	①
b	56	44	- 12	②
c	56	49	- 7	②
d	45	49	+ 4	①
e	66	66	0	④
f	45	40	- 5	②
g	59	41	- 18	②
h	43	45	+ 2	③
i	33	36	+ 3	③
j	51	40	- 11	②
k	52	46	- 6	②
l	51	46	- 5	②
m	56	42	- 14	②
n	53	37	- 16	②
o	62	40	- 22	②
p	48	49	+ 1	③
q	52	51	- 1	③
r	37	45	+ 8	①
s	41	35	- 6	②
t	50	54	+ 4	①
u	59	52	- 7	②
v	37	38	+ 1	③
w	36	46	+ 10	①
x	46	46	0	③
y	63	82	+ 19	②
z				

事項 氏名	知能	読解力	判定	段階
a	54	50	- 4	②
b	39	47	+ 8	①
c	40	47	+ 7	①
d	57	44	- 13	②
e	43	41	- 2	③
f	40	44	+ 4	①
g	57	43	- 14	②
h	53	39	- 14	②
i	56	50	- 6	②
j	43	44	+ 1	①
k	53	55	+ 2	③
l	59	51	- 8	②
m	57	48	- 9	②
n	50	36	- 14	②
o	53	42	- 11	②
p	63	51	- 12	②
q	58	57	- 1	③
r	57	49	- 8	②
s				
t				
u				
v				
w				
x				
y				
z				

① 2名 ② 11名 ③ 12名 ④ 6名 ⑤ 12名 (計 43名)

これをもとに学級では、グループ別の指導方法、対策が考えられる。
 (対策) ⑥ 学年会、低・中・高学年ブロック研究会で、具体的な指導法についての研究を
 もち、ブロックで指導案を考え、研究授業を中心に指導法の追究をする。

⑦ ドリル学習の方法について研究する。

⑧ 指導主事と連絡を取り批正指導を受ける。(友野一著「漢字の教え方」参考図書)

表 4 (5年A組男子)

事項 氏名	知能	読解力	判定	段階
a	65	72	+ 7	Ⓐ
b	66	63	- 3	Ⓑ
c	60	62	+ 2	Ⓑ
d	42	42	0	Ⓑ
e	45	39	- 6	Ⓐ
f	52	49	- 3	Ⓑ
g	64	40	- 24	Ⓐ
h	40	41	+ 1	Ⓑ
i	42	34	- 8	Ⓐ
j	35	40	+ 5	Ⓐ
k	52	41	- 11	Ⓐ
l	44	35	- 9	Ⓐ
m	60	45	- 15	Ⓐ
n	61	60	- 1	Ⓑ
o	58	37	- 21	Ⓐ
p	49	45	- 4	Ⓐ
q	52	38	- 14	Ⓐ
r	54	42	- 12	Ⓐ
s				○
t				
u				
v				
w				
x				
y				
z				

Ⓐ 1名 Ⓑ 12名 Ⓒ 12名

Ⓐ 4名

計 38名

Ⓑ 9名

(5年A組女子)

事項 氏名	知能	読解力	判定	段階
a	64	64	0	Ⓑ
b	53	48	- 5	Ⓐ
c	44	42	- 2	Ⓑ
d	50	48	- 2	Ⓑ
e	54	47	- 7	Ⓐ
f	52	52	0	Ⓑ
g	51	40	- 11	Ⓐ
h	38	48	+ 10	Ⓑ
i	54	42	- 12	Ⓐ
j	59	55	- 4	Ⓐ
k	40	39	- 1	Ⓑ
l	46	37	- 9	Ⓐ
m	56	46	- 10	Ⓐ
n	51	57	+ 6	Ⓐ
o	42	40	- 2	Ⓑ
p	43	51	+ 8	Ⓑ
q	44	40	- 4	Ⓐ
r	49	44	- 5	Ⓐ
s	53	49	- 4	Ⓐ
t	54	49	- 5	Ⓐ
u				
v				
w				
x				
y				
z				

(2) 読書力と語い力との相関関係

つぎに「読書(字)力のある者は語いも豊かだ」という一般的の考え方の再確認の意味もあつて語い調査をしてみました。これはご承知の如く、基本語い、とか標準語いとかいわれるものが無い現状下ではなかなか難題で、結局、東京で教育大の国語研究所の方に考えて戴き、右記五十

語につき傾向を見る、といつた程度で実施したのであります。

表5 (50語)

1. 帽子	(ぼうし)	—	26. 和服	(わふく)	—
2. 名人	(めいじん)	—	27. 菓局	(やっきょく)	—
3. 欠席	(けっせき)	—	28. 幼児	(ようじ)	—
4. 財布	(さいふ)	—	29. 店員	(てんいん)	—
5. 豊英	(えいご)	—	30. 体内外	(たいない)	—
6. 年	(ねん)	—	31. 帰国	(きこく)	—
7. 合唱	(がっしょう)	—	32. 空港	(くうこう)	—
8. 食堂	(しょくどう)	—	33. 全焼	(ぜんせう)	—
9. 午前	(ごぜん)	—	34. 有毒	(ゆうどく)	—
10. 封筒	(ふうとう)	—	35. 冷水	(れいすい)	—
11. 青空	(あおぞら)	—	36. 職業	(むしょく)	—
12. 両親	(りょうしん)	—	37. 北国	(ほっこく)	—
13. 古本	(ふるほん)	—	38. 满腹	(まんぷく)	—
14. 食後	(しょくご)	—	39. 転校	(てんこう)	—
15. 小男	(こおとこ)	—	40. 代用	(だいよう)	—
16. 校門	(こうもん)	—	41. 屋外	(おくがい)	—
17. 出入口	(でいりぐち)	—	42. 夏物	(なつもの)	—
18. 停電	(ていでん)	—	43. 女医	(じょい)	—
19. 百貨店	(ひやっかてん)	—	44. 落馬	(らくば)	—
20. 小舟	(こぶね)	—	45. 貴重品	(きちゅうひん)	—
21. 価格	(かかく)	—	46. 下山	(げさん)	—
22. 水田	(すいでん)	—	47. 洋装	(ようそう)	—
23. 著者	(ちょしゃ)	—	48. 防寒	(ぼうかん)	—
24. 低温	(ていおん)	—	49. 製粉	(せいふん)	—
25. 毛筆	(もうひつ)	—	50. 信者	(しんじゃ)	—

前記(表3, 表4)の学級についてみますと、つぎのようになり、これも個人個人について非常に参考になりました。特に実施学年では珍答がたくさん出て、文章の中にある語句の解釈だけでなく、こういつた指導も適宜とり入れて行なうと、会話、作文等の際の使用語いが増すのではないか、等々の意見が交わされたことを付記しておきます。

表6(5年)語い・読字相関図表

表6(5年A組男子)

事項 氏名	読 字 力	語 い 力	判 定	段 階
a	72	71	- 1	Ⓐ
b	63	56	- 7	Ⓑ
c	62	74	+ 12	Ⓐ
d	42	33	- 9	Ⓑ
e	39	0	- 39	Ⓑ
f	49	53	+ 4	Ⓐ
g	40	44	+ 4	Ⓐ
h	41	14	- 27	Ⓑ
i	34	17	- 17	Ⓑ
j	40	21	- 19	Ⓑ
k	41	42	+ 1	Ⓐ
l	35	20	- 15	Ⓑ
m	45	50	+ 5	Ⓑ
n	60	71	+ 11	Ⓑ
o	37	29	- 8	Ⓑ
p	45	39	- 6	Ⓑ
q	38	27	- 9	Ⓑ
r	42	36	- 6	Ⓑ
s				
t				
u				
v				
w				
x				
y				
z				

Ⓐ 1名 Ⓑ 5名 Ⓒ 18名

Ⓐ 4名

計 38名

(対策)

- ◎ 国語研究部(校内)，各学年にて，授業時における語い指導についての研究をすすめ，研究授業を実施しながら指導法の改善をする。
- ◎ 読書奨励法を考え実践する。(研究図書，光風出版社，小河正介著「語い指導」の研究)

(5年A組女子)

事項 氏名	読 字 力	語 い 力	判 定	段 階
a	64	56	- 8	Ⓑ
b	48	42	- 6	Ⓑ
c	42	39	- 3	Ⓑ
d	48	42	- 6	Ⓑ
e	47	26	- 21	Ⓑ
f	52	47	- 5	Ⓑ
g	40	44	+ 4	Ⓐ
h	48	44	- 4	Ⓑ
i	42	50	+ 8	Ⓐ
j	55	54	- 1	Ⓑ
k	39	30	- 9	Ⓑ
l	37	20	- 17	Ⓑ
m	46	38	- 8	Ⓑ
n	57	48	- 9	Ⓑ
o	40	27	- 13	Ⓑ
p	51	44	- 7	Ⓑ
q	40	38	- 2	Ⓑ
r	44	38	- 6	Ⓑ
s	49	38	- 11	Ⓑ
t	49	44	- 5	Ⓑ
u				
v				
w				
x				
y				
z				

指導主事の指導を受け批正して戴く。

○家庭環境調査（文化程度に関するもの）

さて、これら読書力、語い力が児童個人の知能に深いつながりをもつことはもちろん、家庭環境にも大きく影響されるであろうことはだれしも考えるところであります。そこで読書（解）力に影響しそうな環境について調べてみました。

表 7 (家庭環境調査)

あなたの家にはつぎのものがありますか

子供用自転車・空気銃・カメラ・双眼鏡・望遠鏡・顕微鏡・撮影機・映写機・幻燈機・電気玩具・地球儀・かけ地図・油絵道具・工作道具・動植物標本・子どもの百科辞典

- { (1) 全然ない 答
(2) 1~2ある 答
(3) 3~5ある 答
(4) 6以上ある

いまあなたは、家で毎月きまつてあなたのため
に雑誌をかつてもらっていますか。

- { (1) い る 答
(2) ときどき
(3) 全然ない

あなたの家では、子どものための新聞をとつて
いますか。

- { (1) とつている 答
(2) とらない

あなたは自分の学習机をもつていますか。

- { (1) もつている 答
(2) いつしょの机
(3) もつてない

あなたの家には、子どもだけの部屋か、または
勉強室がありますか。

- { (1) あ る 答
(2) な い

あなたは、家に教科書以外の本をどのくらい
もつているか。

- { (1) 全然ない 答
(2) 1~5さつ 答
(3) 6~10さつ 答
(4) それ以上

あなたは学校以外で先生について、何か習つ
ていますか。

- { (1) 全然ない 答
(2) 一 つ
(3) 二 つ 以上

絵・ピアノ・バイオリン・その他の楽器・合唱・英語・そろばん
習字・算数・その他の学科・舞踊

あなたは学校以外の団体に参加していますか。
子ども会・ボーイスカウト・(ガールスカウト)
YMCA(YWCA)・少年赤十字・少年団・郵便
友の会・教会・日曜学校・野球チーム・その他

- { (1) 全然ない 答
(2) 一 つ
(3) 二 つ 以上

- ⁱ
 (9). あなたの家の近くでよく利用しているものがありますか。
 公園・児童遊園地・子どもの広場・運動場・プール・図書館・動物園・子どもの会館
- | | |
|--|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 全然ない (2) 一つある (3) 二つ以上 | □ 答 |
|--|-----|
- ^j
 (10). あなたの家には(英語・その他の外国語の辞典や漢和辞典など)がありますか。
- | | |
|--|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 全然ない (2) 一つある (3) 二つ以上 (4) 三つ以上 | □ 答 |
|--|-----|
- ^k
 (11). あなたの両親のどちらかは毎月きまつて何か雑誌をとっていますか。
- | | |
|--|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) かわなどい (2) ときどい (3) とつて | □ 答 |
|--|-----|
- ^l
 (12). あなたの家庭では新聞をとつてますか。
- | | |
|--|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 全然ない (2) 一種類 (3) 二種類以上 | □ 答 |
|--|-----|
- ^m
 (13). あなたの両親のどちらかは、あなたの学校のP.T.Aの会などに出席しますか。 ピーテー
- | | |
|---|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 全然ない (2) 時々する (3) いつもする | □ 答 |
|---|-----|
- ⁿ
 (14). あなたの両親のどちらかは、あなたの成績について気にしますか。
- | | |
|---|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 下るとしかる (2) いつも口にする (3) 何もいわない | □ 答 |
|---|-----|
- ^o
 (15). あなたの家庭では子どもの本以外の本が、何さつぐらいありますか。(雑誌を除いて数えなさい)。
- | | |
|---|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) ほとんどない (2) 1~20さつ (3) 21~50さつ (4) 51さつ以上 | □ 答 |
|---|-----|

3年A組 家庭環境調査表

問題	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o		条 件
ア	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1		12
イ	2	1	1	3	1	2	1	2	2	2	3	2	2	2	2		27
ウ	3	3	1	3	2	4	3	1	1	2	1	2	1	2	3		32
エ	3	2	1	3	1	2	1	1	2	3	3	2	2	2	2		30
オ	3	2	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	2		25
カ	2	3	1	2	1	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2		29
キ	3	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	2	1	1		24
ク	3	1	1	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1		19
ケ	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	1		23
コ	5	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	1		28
サ	2	1	1	3	1	2	2	2	2	3	1	3	2	2	1		28
シ	3	3	1	2	1	4	2	2	1	1	1	2	2	2	1		38
ス	4	3	2	3	2	2	2	2	2	4	3	2	2	2	3		31
セ	3	2	1	3	2	2	1	2	2	5	2	2	2	2	2		28
ン	3	2	1	3	1	1	2	2	2	1	1	2	3	2	2		28
タ	2	2	1	2	1	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2		25
カ	3	2	1	3	2	4	2	2	2	1	3	2	1	2	3		33
シ	2	2	1	3	1	2	2	1	2	1	1	2	1	2	1		24
テ	2	3	1	2	1	1	1	2	1	3	1	2	2	2	1		25
ト	3	1	3	1	2	1	2	1	2	3	2	1	2	2	2		29
タ	2	1	1	3	1	1	1	2	2	3	1	3	1	2	1		25
ニ	3	2	1	3	1	3	1	2	2	1	2	2	1	2	2		27
タ	2	2	1	2	1	2	2	2	2	1	2	1	3	2	2		27
木	2	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	2	2		21
ノ	4	3	1	3	2	4	1	2	1	2	3	2	2	2	4		37
ハ	3	2	2	1	1	1	1	2	1	1	2	3	1	2	1		24
ビ	3	3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	2	1		23
フ	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	3	2	2	2	1		22
ト	2	2	1	3	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1		27
赤	2	1	1	2	1	2	1	2	2	1	1	2	2	2	1		23
マ	2	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1		20
タ	4	3	1	3	1	3	2	2	2	3	3	3	3	3	2		37
シ	2	1	1	3	1	2	1	1	2	1	1	2	1	2	2		20
ス	3	2	1	3	2	3	2	2	2	3	3	3	1	2	2		34
キ	3	3	1	2	2	2	2	2	2	1	3	2	1	2	2		31
ト	3	3	1	2	2	2	2	2	2	1	3	3	1	2	2		29
マ	2	2	1	3	1	3	3	2	1	1	2	3	1	2	2		29
ユ	1	2	1	2	1	2	2	2	2	3	1	2	2	2	1		26
ヨ	2	3	2	3	1	2	2	1	2	2	2	2	3	2	2		31
リ	2	1	1	3	1	2	1	1	2	1	2	1	2	1	2		24
ル	2	2	1	3	2	1	1	2	2	3	1	2	2	2	1		26
レ	2	2	1	2	1	2	3	2	1	1	2	4	1	3	3		35
マ	3	3	2	3	2	2	2	2	1	2	4	1	3	3	2		23
フ	2	2	1	2	1	2	1	2	1	1	2	2	2	2	1		27
フ	3	3	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	3	2	2		27

表7 5年A組 家庭環境調査表

問題名	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	条件
ア	4	3	2	3	1	4	2	2	2	3	2	3	2	2	2	37
イ	3	2	2	2	1	2	1	2	2	4	2	2	3	2	2	32
ウ	4	3	2	3	2	4	1	3	2	4	2	2	3	2	2	39
エ	3	2	1	3	1	2	2	3	2	3	2	2	2	2	2	32
オ	3	2	2	3	1	2	1	3	1	3	1	2	2	2	2	30
カ	3	2	2	2	1	3	2	3	2	2	2	2	3	2	2	33
キ	2	2	1	2	1	2	1	3	2	2	3	2	2	2	2	29
ク	3	2	2	3	2	2	1	2	3	3	2	2	2	2	2	33
ケ	2	3	1	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	27
コ	2	2	2	1	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	24
サ	3	2	1	3	1	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	31
シ	3	2	2	2	1	3	1	2	2	3	1	1	2	2	2	30
ス	2	2	1	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	26
セ	3	3	1	3	2	2	3	3	2	3	1	2	2	2	2	34
ソ	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3	1	2	2	29
タ	3	3	1	3	2	2	1	3	2	3	2	2	2	2	2	33
チ	3	2	2	3	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	29
ツ	3	3	2	3	1	4	3	3	2	2	3	2	2	2	2	39
テ	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	2	3	2	2	2	30
ト	3	2	2	2	1	3	2	1	2	3	2	2	2	2	3	32
ナ	3	2	2	2	1	1	1	2	1	2	2	3	2	2	2	28
ニ	3	2	2	2	1	2	2	2	1	3	3	2	1	3	2	31
ヌ	3	2	2	2	1	3	2	1	2	2	2	2	2	2	2	30
ネ	2	3	2	3	1	2	1	1	2	2	1	3	3	2	1	29
ノ	4	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	2	35
ハ	3	3	2	3	2	4	3	1	2	2	2	2	2	2	2	36
ヒ	3	2	2	2	1	3	2	2	1	3	2	3	2	2	2	32
フ	3	2	2	3	2	2	2	2	1	3	2	2	2	2	2	32
ヘ	2	2	1	3	1	2	1	2	1	2	3	2	2	2	2	28
ホ	3	2	2	3	2	2	1	2	2	2	2	3	2	2	2	32
マ	3	1	2	3	1	2	1	1	1	3	1	2	1	2	2	26
ミ	3	3	2	3	1	2	3	2	2	2	2	2	3	2	2	33
ム	3	3	1	3	2	3	1	2	1	3	3	3	1	2	2	33
メ	2	2	2	2	1	2	3	2	1	3	2	2	2	2	2	30
モ	3	2	1	2	2	3	2	2	2	3	2	3	2	2	3	34
ヤ	3	2	2	3	1	4	2	3	2	3	3	3	2	2	2	37
ニ	3	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	2	1	2	3	27
ヨ	3	3	2	2	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	38
ラ																
リ																
ル																
レ																
ロ																
ワ																

(対策)

- この結果、家庭学習の指導計画、(宿題等)学校でのある種指導も、ケースバイケースが基本になることを認知。
- ある程度類型化をして指導、刺激し合つて学習させることができる。
- 興味、意欲を引き出す手がかりをつかむ。

ここまで考えてまいりますと、これら調査した資料の活用についての問題が山積してまいります。

根本問題としては、もう入学時に相当な個人差のある国語力の伸長をはかるのに学級において扱う場合、授業をただ一律に扱えば、ますますその差を増大させる結果となり、かといつて毎時の能力別指導は困難を極めます。そこで教師は現状におけるより良い指導として、児童個々のこうした種々実態をとらえ、その上にたつての個人指導をおりませることがたいせつだと考えられ(後述関連)これらの諸表を児童の国語科の成績と関連づけて考え(まだ過程であります)指導していくことも読解力向上への一方法だと確信するのであります。

今後は国語教育の場において、何か問題を発見した場合、主観的、情感的に解決することを考えず、少しく科学的、論理的に取り組み、(a)記録にもとづく調査、(b)分析、(c)仮説、(d)実験、(e)証明、(f)結論、の過程を考えた研究態勢で臨みたいものと考えるのであります。

ついでに、語い調査のおり、読解に非常に関係深い「連想調査」も行ないました。

連想調査用刺激語

○はやい	○すずしい	○したがう	○以上12語を1語板書しては別紙調査用紙に書かせ、30秒で消して、次の語にうつる、といつた要領で行なう、語句の意味は質問されても答えないと実施する。
○ピアノ	○がんがん	○きれる	
○どんどん	○うつくしい	○くしゃくしゃ	
○おかあさん	○せめる	○けんきゅう	

国語科連想調査

1. (1)	(2)	(3)
2. (1)	(2)	(3)
3. (1)	(2)	(3)
4. (1)	(2)	(3)
5. (1)	(2)	(3)
6. (1)	(2)	(3)
7. (1)	(2)	(3)
8. (1)	(2)	(3)
9. (1)	(2)	(3)
0. (1)	(2)	(3)
1. (1)	(2)	(3)
2. (1)	(2)	(3)

これは解答が千差万別で、まだ未整理の段階ですので後日まとめたいと思つております。ただ言えることは、同じ刺激語を与えて、反応するもの（イメージ）はもう児童の段階でも、こんなに違うのかと驚ろかされたことです。

（おわりに）

どの教科にも言えることですが、最後に「児童の国語に対する興味、意欲、の問題」が残ります。これが解決しないことには、読解力もめざましい向上を期せないのであります。しかしこれこそまったく児童一人、一人みんなが異ったケースにあり、高校進学等という目標のために意欲を持続している者、友だちとの対抗意識が学習意欲につながつているといった特殊なケース、等々……将来はこの問題にも科学的にとりくみ「民主的で有能な社会人になるため」の教育目標を学年相応に具体的におろして来て理解させ、健全に培う方法を考えるべきでしようが、現状では教師が児童の実状に即し、・具体的に、・気をがに、・常時機に臨み、・根気よく啓発していく、ほかに方法はないようであります。

知能、環境の基盤に立つた児童が、興味、意欲、努力の支柱によつて成績を築き、高めていく構造図を胸に描き、ラジオ、テレビ、等の影響力もあつて、昨今ますます読書の機会を失い、読書力、読解力低下の傾向にある児童を学校教育、国語教育の場において少しでも防ぎ、それを高めていく方法として、足もとからこつこつと調査し、実態を知り、対策を立て、実践することを授業に取り入れていくことも他の指導と相まつて必要ではないかと思うであります。

まだまだ研究も序の口で、ほんの手がけたといつたところ。これら成果についての結論、詳細な報告、にまで至らないのですが、読解力を高めるには先ず、文字力、語彙を身につけさせることが先決問題であり、しかも現在比較的軽視されがちな点ではないかと憂え、ここに取り上げた次第であります。